神奈川県立総合教育センター研究集録25:1～8.2006

小中一貫校に関する研究

── 小中の連携を意識したカリキュラムの開発 ──

穂　坂　明　範[1]

校種間連携による指導が重要視されている中、小中一貫校についても研究を進めていくことは喫緊の課題である。しかし、県内にはまだ、その動きがないため、近い将来開校が予想される小中一貫校を視野に入れつつ、小中連携についての多様な取組について研究し、その在り方を探っていくこととした。前年度の研究では、児童・生徒指導に関する内容を中心に行ったが、今年度は、学習指導における小中の連携の在り方を授業実践によって検証し、その重要性を確認した。

はじめに

「小中一貫特区」として構造改革特別区域に認定された東京都品川区は、平成18年度の小中一貫校の開校に向けて、平成17年度には独自のカリキュラムを発表した。国内では、他にも十数か所に及ぶ小中一貫特区が認定されている。また、研究開発学校による小中一貫教育の研究も連綿と行われてきている。

県においては、平成21年度に県立中等教育学校２校の開校が予定され、中高一貫教育に関する動きが活発になってきている。しかし、小中一貫校に関しては、今のところ、計画はない。

そこで、現行の６－３制の学校・学年区分のままで小中相互の連携の在り方について研究することとした。

研究の目的

本研究は、昨年度より行われている。昨年度は小中の連携の様々な在り方について研究した。内容は児童・生徒指導や、小中合同の研修会などに関するものが中心であった。今年度は、学習指導に関する実践と検証を行い、小中のよりよい連携の在り方を探ることとした。

本年度は、二つの連携について研究した。一つは、キャリア教育に関する指導である。キャリア教育については、高等学校で注目されているが、義務教育９年間を見通したキャリア教育を考えていくことも重要である。そこで、小中一貫したカリキュラムを作成し、それに基づいた授業実践を行った。小学校３年では「係活動（特別活動）」、中学校２年では「職業体験学習（総合的な学習の時間）」で行い検証した。

また、教科指導についての研究も必要であるので、社会の歴史分野における実践について考えていくこととした。ここでは、小中同一の教材を使用することで、指導内容や指導形態についての校種による違いや発展性、つながりなどについて明らかにしようとするものである。

研究の内容

１　小中一貫カリキュラムに基づいたキャリア教育

(1) 小中一貫カリキュラムの作成

キャリア教育の小中一貫カリキュラム作成に当たっては、平成16年度に当総合教育センターが発行した「キャリア教育推進ハンドブック」のキャリア発達に関わる諸能力（キャリア諸能力）校種別マトリクス（第１表）を参考にした。それに基づき、協力員所属校の学習内容を当てはめた（第２表）。今回の実践では、その中の情報活用能力のうち、職業理解能力の育成に焦点を当てた。

(2) 小学校３年「係の仕事」（特別活動）

ア　単元の目標

・係の仕事をする意味を考え、働くことの意義に気づく。

・クラスの一員であることを認識し、係の仕事を通してクラスの友だちのために役に立とうとする。

・係の仕事を工夫し、計画的に活動に取り組む。

イ　単元について

低学年での係活動は、クラス内の仕事分担に近い当番活動的なものが多い。しかし、本来、係活動とは児童の自主的な活動によるものであり、掃除当番や給食当番のような当番活動とは異なるものである。そこで、中学年になって活動が広がる３年生の時期に、係活動の充実が図れるように、その内容を考えさせることが重要になってくる。また、係活動を通して、働くことの意義や役割を理解していくことが、キャリア諸能力の育成となり、小学校中学年の時期に身に付けることで、高学年での活動や中学校段階での職業理解がさらに充実したものになると

１　研究開発課　研修指導主事

考える。そこで本単元では、まず係の仕事について見直させ、クラスをよりよくするために仕事をすることに気づかせたい。さらに、なぜ係活動をするのか、係活動をするとどんな良いことがあるのかを話し合いながら、係の仕事の意義について考えさせていくこととした。

ウ　単元の指導計画

４月「係決め」（１時間）

「係の仕事について」（１時間）

通年の常時活動

（計画→実行→振り返り）

10月「係決め」（１時間）

「なぜ係の仕事をするのか」（１時間）

【本時】

エ　本時の流れ

導入では、自分が今行っている係の仕事について想起させた。次に、「係の仕事をするとどんな良いことがあるのだろうか。」と投げかけた。児童からは、「友だちに喜んでもらえた。」「みんなが協力してくれてうれしかった。」などの発言があった。

その後、係ごとに分かれて、これからどんな仕事をしたらよいかを話し合わせた。最後に互いにアドバイスをしあいながら、工夫した活動内容を発表させた。

オ　実践の成果

児童は、自分たちの活動を振り返りながら、係の仕事が友だちを楽しませていることや、友だちの役に立っていることに気づくことができた。また、友だちのために活動をすることで、自分も良い思いをしていることに気づく児童もいた。係活動を通して、働くことの意義について考えることができたと思う。以来、みんなが楽しくなるようにと、児童はいろいろな活動を考え、自主的に取り組んでおり、意欲的な活動が広がっている。

中学年でのこういった取組が、高学年や中学校での自主活動にもつながっていくと考えられる。また、中学２年生の職業体験学習で働く意義について考える際にも、小学校での自主的な係活動や委員会活動での経験がいかされるものと考える。

そのためにも、児童の自主性に基づいた係活動を充実させ、積み重ねていくことが必要であると実感した。

(3) 中学校２年「職業体験学習を通して学ぶ」～人はなぜ働くのか～（「総合的な学習の時間」）

ア　単元の目標

・自分の興味や関心が、職業とどうつながっていくのかを考えさせる。
・働く目的を考えると同時に、学ぶ目的もしっかり考えさせる。
・各自の希望職業を踏まえ、生き方のイメージをもたせる。
・年齢段階を設定することにより、働く目的が変化していくことを理解させる。

イ　単元について

人が働く目的は「収入を得て生活するため」だけだと思っている生徒が多い。また、最近の傾向として、ニートやフリーターなどの若者が増えている。職業人として過ごす数十年をどう生きるかは、自分にとっても社会にとっても大きな問題であると考える。また、変化が常態となっている現代社会においては、主体的に生き、自分で判断し行動できる人間が求められている。このような社会状況の中にあって、生徒たちに、職業に対するしっかりした目的意識を育てることが大切である。

そこで、働く意義と目的を、具体的な職業生活や家庭生活の設計をさせる中で考えさせたい。

中学１年より進路や将来のことを考える学習はしてきているものの、自分の将来について身近に感じている生徒は少ない。今までの進路指導は、どちらかというと進学指導に近く、職業観を養う取組は少なかった。このことが、ニートやフリーターが多くなる現象を作っている原因の一つとも考えられる。そこで、自我に目覚める中学生のこの時期に、将来設計を踏まえた進路が考えられるよう指導していくことが重要である。

進路をみつめることは自我に目覚めるこの時期の発達課題であり、この時期に取り組ませたい学習課題である。進路を決定することに焦る必要はないが、自分を見つめ、家庭の事情なども含めて個性をいかして、歩むべき進路について考え検討することは必要であると考える。

ウ　単元の指導計画（14時間扱い）

①職種に関わる資格・仕事の内容を知る
②「人はなぜ働くのか」を考える【本時】
③自分の挑戦したい職業調べを行う
④地域の事業所を調べる
⑤職業体験学習の趣旨説明と実施上の注意点
⑥訪問計画の立案
⑦「働く」ということや「訪問マナー」について
⑧職場を訪問する際の「挨拶」や「マナー」の確認と訪問する職場の注意点等の確認
⑨前日の最終確認及び最終打合せ
⑩職業体験学習（１日目）
⑪職業体験学習（２日目）

第１表　キャリア発達に関わる諸能力（キャリア諸能力）

大切にしたい姿			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
			自分の良さに気づく		人との関わりの中で自分の良さに気づく		夢を持って、自分の可能性をさぐる			自己を振り返り、これからの生き方をさぐる	
キャリア諸能力											
	領域説明	能力説明									
自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	【自己理解能力】 自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力	・自分の好きなもの、大切なものがある。		・自分のよいところを見つける。		・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。			・自分のよさや個性が分かる。 ・自己の職業的な能力・適正について考える。	
		【自己表現能力】 適切な自己表現を通して自己実現を図る能力	・自分の考えをみんなの前で話す。 ・自分の好きなことや嫌いなことをはっきり言う。		・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。		・気づいたこと、わかったことや、個人・グループでまとめたことを発表する。			・必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。 ・自分の考えや意見を筋道立ててわかりやすく説明する。	
人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	【他者理解能力】 他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	・友だちとなかよく遊び、助け合う。 ・お世話になった人等に感謝し、大切にする。		・友だちのよいところを認め、励まし合う。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。		・話合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。			・他者の良さや感情を理解し、尊重する。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響がわかる。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。	
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をする。 ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。		・友だちの気持ちや考えを理解しようとする。 ・友だちと協力して、学習や活動に取り組む。		・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動しようとする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。			・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 ・新しい環境や人間関係に適応する。	
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	【情報収集・活用能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子がわかり、興味・関心を持つ。		・いろいろな職業や生き方があることがわかる。 ・わからないことを図鑑などで調べたり、質問したりする。		・身近な産業・職業の様子やその変化がわかる。 ・自分に必要な情報を探す。			・産業、経済等の変化にともなう職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ・上級学校、学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略がわかる。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査、収集、整理し活用する。	
		【職業理解能力】 様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さがわかる。		・係や当番活動に積極的にかかわる。 ・働くことの楽しさがわかる。		・施設、職場見学を通し、働くことの大切さや苦労がわかる。 ・学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。			・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる。 ・係、委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択にいかす。	
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性がわかる。		・互いの役割や役割分担の必要性がわかる。 ・日常の生活や学習と、将来の生き方との関係に気づく。		・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかる。 ・仕事における役割の関連性や変化に気づく。			・自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等がわかる。 ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	
		【計画実行能力】 目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力	・作業の準備や片付けをする。 ・決められた時間を守ろうとする。		・将来の夢や希望を持つ。 ・計画づくりの必要性に気づき、作業の手順がわかる。 ・学習等の計画を立てる。		・将来のことを考える大切さがわかる。 ・憧れとする職業を持ち、今しなければならないことを考える。			・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心、意欲を高める。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	【選択・決定能力】 様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定し、その結果を責任をもって受け入れ、適応・対処できる能力	・してよいことと、してはいけないことがあることがわかる。		・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・してはいけないことがわかり、自制する。		・児童会活動等で自分のやりたい委員会や、やれそうな仕事を選ぶ。 ・教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。			・自分の個性や興味、関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任がともなうことなどを理解する。 ・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を決定し、その結果を受け入れる。	
		【課題解決能力】 希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力	・自分のことは、自分で行おうとする。		・自分の仕事に責任を感じ、最後までやり通そうとする。 ・自分の力で課題を解決しようと努力する。		・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。			・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面にいかす。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	

大切にしたい姿			小1	小2	小3	小4
			自分の良さに気づく		人との関わりの中で自分の良さに気づく	
キャリア諸能力						
	領域説明	能力説明				
自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	【自己理解能力】 自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力			・さかなはさかな（道徳）	
		【自己表現能力】 適切な自己表現を通して自己実現を図る能力	・ほんがよみたいな（国語）	・みんなのまえではなそう（国語）	・自分をしょうかいするスピーチをしよう（国語） ・曲の感じをとらえて（合奏）（音楽）	
人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	【他者理解能力】 他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	・はなびら（道徳） ・おじさん　なに　やっているの（道徳）	・森の　ともだち（道徳） ・ともだちだものね（道徳） ・じぶんが　しんごうきに（道徳） ・雨の日のそくたつ（道徳） ・学区探検（生活）	・学区探検（社会） ・なかよしだから（道徳） ・学校の帰り道（道徳）	・ジャガイモ畑で（道徳） ・とべないホタル（道徳）
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・はきはきあいさつ（国語） ・あいさつ（道徳） ・やぎさんのたんじょうび（道徳）	・うれしい　気持ち（道徳） ・あいさつっていいな（道徳） ・学区探検（生活）	・学区探検（社会） ・曲の感じをとらえて（合奏）（音楽） ・いいち、に、いいち、に（道徳） ・たまちゃん、大すき（道徳）	・「ありがとう」の言葉（国語） ・ぼくらだってオーケストラ（道徳）
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	【情報収集・活用能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・がっこうたんけんで（道徳）		・盲導犬の訓練（国語） ・学区探検（社会） ・農家の仕事（社会） ・スーパーマーケットではたらく人（社会） ・くらしを守る仕事（社会）	・環境を守るくふうについて調べよう（国語） ・点字メニューにちょうせん（道徳）
		【職業理解能力】 様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	・もうすぐ2年生（道徳）		・公園ボランティア（道徳） ・ことぶき園に　いったよ（道徳） **・係の仕事（学級活動）**	・できることから（道徳）
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力			・係の仕事（学級活動）	
		【計画実行能力】 目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力	・うかんだ　うかんだ（道徳）	・さかあがり　できたよ（道徳） ・ぼくは「のびた」でした（道徳）		・病気の人を助けたい（道徳）
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	【選択・決定能力】 様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定し、その結果を責任をもって受け入れ、適応・対処できる能力	・たんぽぽいろの　くつ（道徳）	・みんなのまえで（道徳） ・おれたものさし（道徳）	・二つの声（道徳） ・係の仕事（学級活動）	・どっちにしようか（道徳） ・ドッジボール（道徳）
		【課題解決能力】 希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力	・こぐまの　らっぱ（道徳）	・じぶんで　オッケー（道徳）	・わたしの研究レポートを書こう（国語） ・まけるものか（道徳）	・学区探検にでかけよう（社会） ・ぼくのへんしん（道徳）

小5	小6	中1	中2	中3
	夢を持って、 自分の可能性を探る		自己を振り返り、これからの生き方を探る	
・日本のゴッホをめざして 道徳）	・自分への手紙 道徳）	・自分を知る 学） ・裏庭でのできごと 道）	・適性と進路 学） ・虎 道）	・将来の生き方を考える 総） ・自分についてまとめよう 総） ・選考の方法と書類 学） ・フーテンの寅子 道）
・自分の考えを伝えるスピーチをしよう 国語）	・自分の意見を伝えるスピーチをしよう 国語）	・将来の希望と進路学習 学） ・踏まれてタンポポ 道）	・迷惑とは何ぞ 道）	・進路の悩みを解決しよう 総） ・希望にあふれた将来 総） ・ある贈り物話 道）
	・言葉のおくりもの 道徳）	・職業体験学習 総） ⑬体験の発表 ・夜のくだもの屋 道）	・職業体験学習 総） ⑭体験の発表 ・軽いやさしさ 道）	・先輩の体験に学ぶ 総） ・午後の電話 道）
	・幸せをおくるリーダーに 道徳） ・車いすでの経験から 道徳） ・どうすればいいの 道徳）	・職業体験学習 総） ⑦⑧働くとは、訪問の仕方 ⑩職場体験 ⑪礼状の作成、発送 ・雨の日の届け物 道）	・職業体験学習 総） ⑦⑧働くということ、訪問のマナー ⑩⑪職場体験 ⑫礼状の作成、発送 ・種をまいてもいいですか？ 道）	・進路希望先の見学の仕方 学） ・パブリック？プライベート？ 道）
		・職業体験学習 総） ①職種に関わる資格等 ③自分の挑戦したい職業調べ ④事業所調べ	・職業体験学習 総） ①職種に関わる資格、仕事 ③自分の挑戦したい職業調べ ④事業所調べ ・学ぶための機会と制度 学）	・進路先の調査の必要性 総） ・進路選択のための諸条件 総） ・進路情報の収集 学）
・わたしのボランティア体験 道徳）	・小さい子からもらった幸せ 道徳）	・職業体験学習 総） ②働く目的について考える ⑩⑪職場体験 ⑬体験のまとめ ・働く人々の姿 学）	・職業体験学習 総） **②働く目的について考える** ⑩⑪職場体験 ⑬体験のまとめ ・働くことと学ぶこと 学）	
・人間の生き方をえがいた作品を読もう 国語） ・世界中の子どもたちとともに 道徳） ・かれてしまったヒマワリ 道徳）		・職業体験学習 総） ⑬体験のまとめ	・職業体験学習 総） ⑬体験のまとめ ・職業観について 学）	・進学・就職の準備 総） ・将来の生活とその心構え 総）
	・わたしたちの「未来」について討論しよう 国語）	・職業体験学習 総） ③自分のやりたい仕事 ⑤職業体験学習の計画 ⑥訪問計画の立案 ⑩職場体験 実習） ・進路計画について 学）	・職業体験学習 総） ③自分の挑戦したい仕事 ⑤職業体験学習の計画 ⑥訪問計画の立案 ⑩⑪職場体験 ・進路計画の検討 学）	・進路計画の最終検討 総） ・希望に燃えて 総）
		・職業体験学習 総） ⑫体験のまとめ	・職業体験学習 総） ⑬体験のまとめ	・進路決定に向けて 総）
・いつも全力で 道徳） ・ボールの魔術師ペレ 道徳）	・神父さまはマスクマン 道徳） ・かたうでの名コーチ 道徳）	・オー・ブリオンの一日体験 道）	・動かない心を求めて 道）	・面接と受験の心構え 学）

＊注　道…道徳、 学…学級活動、 総…総合的な学習の時間

⑫お礼の手紙を書く
⑬体験をまとめる
⑭発表会、まとめ

エ　本時の流れ

「人はなぜ働くのだろう」と題したプリントを配付し、①世の中のため、人のために役立ちたい、②好きなことや得意なことをいかして充実した人生を送りたい、③お金のため、の三つのうちから自分の考えに近いものを選ばせ、自分の考えを記入させた。次に希望する職業を記入し、働く目的を考えさせた。さらに年齢に応じて自分がどんな生活をしているのかを想像させた。具体的なイメージを持ちにくい生徒も何人かいたので、教師が用意したリストから選ばせた。働くことが自分や家族、社会とどのように関わっているかを考えさせ、さらに、希望する職業に就くためにこれから努力すべきことを記入させ授業を終えた。

オ　実践の成果

生徒は人が働く目的について理解し、自分なりのイメージができあがったように思える。また、働く目的が理解できたことによって、生き方のイメージが自分なりにつくれたようだ。さらに、自分の希望する職業に就くために、どのような進路選択を行えばよいかもある程度は理解できたと思われる。

しかし、中には、働く目的を考えた場合に、理想と現実の違いが区別できないでいる生徒もいた。そして、自分の将来をしっかり見つめていないために、どんな職業に就きたいかが決められず、将来の自分の家庭生活の設計も考えられなく、望ましい職業観や生き方のイメージがつくれなかった生徒もいた。

今後も、将来設計を踏まえた進路学習が、展開できるよう工夫していきたい。

(4) 連携の意義

年齢とともに変化すると思われる自分の興味や関心を職業観や生き方のイメージとして捉えさせることの難しさを感じ、小中の連携の必要性と大切さをあらためて痛感した。キャリア教育の重要性は国や県も強調しているが、現場での実践はまだまだこれからという段階である。その中で、いつ、どのようなキャリア諸能力をどの教科のどの単元で身に付けさせるかが系統的に見渡せるようなキャリア教育の小中一貫カリキュラムを作成したことは大きな成果であると考える。さらに今回の実践をもとにして改善を図っていきたい。

2　同一教材を活用した社会・歴史分野の指導

(1) 小学校６年「戦争と人々のくらし」

ア　単元の目標

・満州事変、日中戦争、太平洋戦争について自分の調べたい課題を持ち、具体的事例を地図・資料などを活用して調べる。
・満州事変、日中戦争、太平洋戦争について15年間にわたって戦争が続き、日本国民やアジア・太平洋の地域に住む人々に大きな被害を与えたことを理解する。
・戦争の実態や平和の尊さについて考え、自分なりの意見を持つ。

イ　単元について

本単元では、中国との戦争から太平洋戦争、沖縄、広島、長崎を経て敗戦に至るまでの事実や流れを捉えられるようにすることを大きなねらいとしている。児童に、より具体的に当時の様子を捉えさせるために、被爆者を招いて話を聞くことや、14歳の少女の日記を教材として扱うことを単元に組み入れ、自分たちの身近な人が悲惨な戦争を体験していることや自分たちと年齢が近い少女が戦争をどのように見ていたのかをつかむことで、切実感のある学習にしたいと考える。

ウ　単元の指導計画（６時間扱い）

①中国との戦争が始まる
②アジア・太平洋に広がる戦争
③戦争中の子どもの暮らし【本時】
④身近な地域と戦争
⑤戦争と国民生活の変化
⑥沖縄・広島・長崎、そして終戦

エ　本時の流れ

14歳の少女である治子さんの日記「授業がなかった学校」を配付し、通読させた後、気付いたことを話し合った。児童からは、「治子さんが学校に行っているが、聞いたことのない科目（修練）をやっている。」「配給があるということは、ほしいものが自由に手に入らないのかな。」「外にお風呂に行っている。家にはお風呂がないのかな。」「アメリカ人を見て驚いている感じがする。」などの意見が出された。

次に、日記中の文章や文言などで戦争中であることが分かることを書き抜き、意味をつかんだり、現在と比較したりさせた。多くの児童が書き出した言葉は次のとおりである。「配給…食料を配ること」「防空壕…空襲の時に避難のために地面を掘ってつくった穴」「警報…軍の監視所が敵機を発見すると発令される警戒警報のこと」

最後に、分かったことや気づいたことをワークシートに記入し、発表しあった。「配給という言葉は４年生の国語『一つの花』でもやったから知っていた。」というように、既習事項を

振り返ることができた。また、「私も防空壕に実際に入った事があるよ。」と担任の経験も話した。児童は、「えっ、近くにあるの？」「行ってみたい。」と身近にも戦争があったことに気づくことができた。さらに、もし自分が戦争を体験していたらという状況を意識できた、「疎開って家族と離れちゃうからさびしそう。」という発言もあった。

オ　実践の成果

地域のお年寄りを招いて戦争の体験談を聞くことや14歳の少女の絵日記を手がかりにした学習内容を単元に組み入れたことは、指導計画の内容や目標とも合致しており、児童が戦争当時の日本の様子を具体的につかんでいくことにも効果があったのではないかと考える。小学校の社会科の指導においては「体験活動重視の問題解決型学習になりやすく、基礎的な知識・技能の定着が図りにくい。」ということが課題になることもあるが、14歳の少女の絵日記をもとにした学習では、少女の戦争に対する思いをつかむことと併せて、配給、空襲、防空壕などついても扱うことができた。

小・中学校で同じ教材を扱い連携を図ることも想定して教材を選定し、授業を実施したが、少女の日記をもとに、児童が「戦争当時の人々がどのような生活をしていたのか。」「戦争に対してどのような思いを抱いていたのか。」ということなどをつかんでいけるようにすることを心がけた。また、当時の様子を知り「自分たちが今いかにしあわせな生活をしているかがわかった。」という児童や「今の時代からは考えられないことが起こっていた。」という感想を持った児童もいた。これらの感想は、本単元の後の「戦後の復興」の学習にいかすことができた。

(2) 中学校２年「ある家族にとって、1945年８月15日とは」

ア　単元の目標

・昭和初期から第二次世界大戦の終戦までのわが国の政治・経済・外交の動きに着目させて、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させるとともに、戦時下の国民生活に着目させる。また、大戦が人類全体に惨禍をもたらしたことを理解させる。

イ　単元について

戦後の日本を考えるとき、二つの大戦に日本がどう関わっていたかをしっかりと認識しておくことが重要である。しかし生徒たちはともすると遠い昔の出来事といった感覚で受け止めがちであり、現実とかけ離れてしまう。そこで、教材としてある一人の少女の戦時中の日記を用いたのは、自分たちと同じ年齢の子どもがこの大戦をどう感じていたかを追体験させることをねらったからである。

２年生の歴史学習を後期に計画しているのは、生徒の発達段階を考慮して近現代史を学ばせたいからである。自分の将来を考え始める時期であり、内面的な成長が著しい時期だからこそしっかりとした歴史認識を持った中学生になってほしいと考えている。

３年生で学ぶ公民的分野との関わりからも、現代史にじっくりと時間をかけて学ばせたい。小学校段階では、取り上げる歴史的事象を精選し、深入りせずに指導していくことが重要であるが、中学校では世界の動きとわが国との関連を重視し、軍部の台頭から戦争までの経過や戦時下の国民生活に注目させたい。

ウ　単元の指導計画（５時間扱い）

①第二次世界大戦
②戦時下の生活
③「ある家族にとって1945年８月15日とは
（「授業がなかった学校」より）」【本時】
④戦争の終結
⑤被爆者の方のお話を聞く

エ　本時の流れ

終戦時の日記から少女の気持ちを想像させることを導入とし、さらに当時の新聞や玉音放送などの資料を提示し、当時の様子を考えさせた。また、家族構成図や年齢などを手がかりに、この家族がどんな状況にあるのか、「授業がなかった学校」という本のタイトルに迫る。

そして、終戦の４ヵ月後の日記と比較することで、少女の気持ちの変化を読み取り、国家の変化と対応させて考えさせた。

また、安易に戦争を捉えさせるのではなく、歴史の大きな流れを複眼的に見つめる目も持たせるように配慮した。

オ　実践の成果

日頃から豊富な資料に接している中学生ではあるが、本時の資料は彼らと同じ年齢の子どもの絵日記ということで、生徒の反応は良かった。また、教科書の記述にはない部分も多く、庶民の目から見た歴史を学ぶことができた。そして、心情的に訴える部分も多く、その後の学習における被爆者からお話をうかがう体験にもいかすことができた。さらに、これを発展させた形として「原爆投下の是非を問う」という高度なディベート学習へと発展させることができた。

(3) 連携の意義

小中の社会、特に歴史学習に関しては、両方の教科書を見比べてみると、かなり重複した内容になっている。しかし、小学校が体験・活動重視の学習であるのに対して、中学校では内容重視の系統的な学習へ移行し、その違いに戸惑う生徒も多い。中学校から見ると小学校での基礎的な知識・技能の定着が十分でないと感じられ、小学校から知識注入型の学習になり、問題解決的な学習による知識・技能の定着が図られていないのではないかという懸念もある。今回は、それらの懸念を解消できるような教材を活用し、小中両方で授業を実践した。この研究を通して、互いの児童・生徒への思いや指導感を知ることができた。また、自分自身の思いを伝えることもできた。

小中の指導内容や指導方法上の課題を解決していくためにも同一教材を扱ってみる意義があると考えた。同じ教材を扱いながら、それをどう深めていくかで小中それぞれの歴史教育のねらいが明確になるものと考える。歴史学習は、小学校ではポイントポイントでの扱いを大切にし、中学校で通史として扱っていくことの重要性を再確認することができた。

研究のまとめ

キャリア教育は、最近注目をされている分野であるが、小中の学習内容の中でキャリア諸能力を育成するキャリア教育カリキュラムを試作したことは大きな意味があると考える。小中一貫したキャリア教育を展開していくには、必要不可欠のものであろう。小学校の中学年の係活動は、発達段階からもより良い生活を営むために、自分は何ができるのか、何をするべきなのかを考える最初の段階として重要であると考える。この時期に充実した係活動を体験できれば、高学年での委員会活動や児童会活動において学校全体を視野に入れた活動を展開することが可能となり、それが中学校での職業体験活動などのキャリア教育に接続していくものであると考える。

社会・歴史分野の学習において同一の教材を活用し、小中それぞれで実践したことの意義は大きい。自分が指導するべき内容だけでなく、小中それぞれで押さえるべきことが互いに明らかになり、それを視野に入れながら学習を進めることができるからである。

また、児童・生徒にとっても、14歳の少女の終戦前後の絵日記を教材としたことで、小中ともに戦争のあった時代をとても身近なものとして、また、自分の視線で捉えることができた。小学校では、国語の物語教材で戦争を題材としたものが扱われているが、児童に実感させることが難しい状況になっている。この教材を活用することで、終戦前と終戦後の年齢の近い少女の心境の変化とともに世の中の大きな変化を捉えることができた。さらに、中学校においては、小学校で扱った教材として親しみをもてるであろうし、小学校のときよりもさらに深く、自分たちの生活との比較から世界の状況まで理解ができ、それを実感できることで学習の喜びを感じることができるであろう。

２種類の実践から、あらためて小中連携の意義を再認識することができ、小中一貫校を考えていくための視点が見出せたと考える。

おわりに

文部科学省が行った教育改革に関する意識調査によると、９年制の小中一貫校の設立や、６－３制から４－５制などへの変更については、教員や保護者の賛成の比率は教育長や首長のそれに比べてかなり低い。一方で、小学校高学年段階での教科担任制の導入については、どの立場でも半数前後が賛成となっている。このことから、小中一貫校の設立は、政策的な判断によるトップダウンの傾向が読み取れるが、小学校における教科担任制の導入など、段階的な小中の接続に関しては推進すべきであるという意見が増えてきている。この現状を考えれば、先行している小中一貫教育の成果と課題を把握しつつ、小中学校の教員は互いをもう少し知る努力を積み重ねることが、同じ義務教育に携わる教員としてのあるべき姿であると考える。

［調査研究協力員］

平塚市立城島小学校	鈴木　美喜
相模原市立くぬぎ台小学校	鹿島　哲夫
二宮町立二宮西中学校	作田　雅弘
茅ヶ崎市立第一中学校	神本　直子

［助言者］

国立教育政策研究所	千々布　敏弥

引用文献

伊藤治子 1986 『授業がなかった学校－戦時中の女子中学生の絵日記－』偕成社 p.120

神奈川県立総合教育センター 2005 「キャリア教育推進ハンドブック」 pp.16-17

参考文献

広島県呉市立五番町小学校・二河小学校・二河中学校編　天笠茂監修 2005 『公立小中で創る一貫教育４・３・２のカリキュラムが拓く新しい学び』ぎょうせい